

カリキュラム

機構施設名： 静岡職業能力開発促進センター
実施機関名： 一般社団法人日本経営協会中部本部
25-22-12-129-044

(A)生産管理	129製造分野におけるDX推進
管理手法	

コースのねらい	生産現場で用いられる各種製造装置や製造工程の監視・制御にICTやIoTなどのデジタル化を組み込むことにより、製品やサービス、ビジネスモデルの改革(DX)を推進して、生産性向上、ビジネス競争力を獲得する方法を理解する。
---------	--

	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間 (H)	日 程	
				月 日	時刻
講義内容	1	■ 製造業におけるDXの理解 (1) 製造業における最先端技術 製造業において標ぼうされているDX化(スマートファクトリー等の概念と構想、政府の支援など)を紹介する。 5Gを活用した製造業の未来図(経産省)を紹介し、現状と将来を予測する。また、技術の浸透する段階をハイプサイクル、イノベーション理論等で体系的に共有し、今後の展開をイメージする。 【演習】自社の現状と未来予想 (2) 中小企業の状況とDX化 中小企業のDX化状況を中小企業白書を用いて解説しつつ、自社の状況を明確化する。 製造業のDXに利用される様々なツール(ERP、RPA、グループウェア、ガントチャート等)を紹介し、DX化のイメージをつかむ。厚労省の推奨するリスクリングに関しても制度や概念を紹介し、必要性や利用可能性を探る。 【演習】DX化に向けた準備事項の整理	2.0	令和7年 12月4日(木)	9:30～16:30 昼休憩 11:45～12:45
	2	■ DX実現事例 (1) 大手企業のDX化推進 NVIDIAやキーエンス、トヨタ自動車等、業界大手企業の動向を紹介し、近い将来に必要なとなるデジタル化の波を実感する。 (2) 推進のプロセス 新技術の浸透にあたっての考え方をPOC、導入手順、計画の立て方などを用いて共有する。導入にあたり、障壁となる事項(設備投資、電場状況、作業場所等)を整理し、どのような環境整備が必要か認識する。 【演習】DX化推進の障壁と滞欧整理(ロジックツリーによる検証)	1.0		
	3	■ DX推進の目標設定と解決策 (1) 業務課題と目標設定 世間の動向、使える技術を踏まえ、自社の課題をどのように解決するかを検討する。現時点での想定はジョブローテーションに必要な技術の承継と生産性の確保をDXを用いてどのように実現するか、その期待効果を検討する。 【演習】DX化による業務課題解消と期待効果 (2) 対応方法の検討 目標の実現方法、実現に向けて実施しなければならないタスク(社長への説明や予算確保等も含む)を明確化する。 【演習】目標達成に向けてやるべきこと	1.0		
	4	■ DX推進の計画と実行 (1) 行動計画の作成 各チームに分かれてDX化の計画を立案し、発表する。 直誓ヵ月の対応を明確化し、実現状況を確認できるようにする。 なお、DX化にあたってはサイバーセキュリティ等への対策(ウィルスソフト導入、ITリテラシー向上のための社員教育等)も重要であることを共有し、DX化が目的化しないように(DXを導入すれば生産性が向上すると安易に考えないように)注意を促す。 【演習】DX化行動計画策定	2.0		
			合計時間	6時間	

カリキュラム作成のポイント
講師からの一方通行ではなく、随時質疑応答やグループワークを取り入れることで、1日集中を継続できるようにします。 演習は自社の状況を題材にすることで、自分事として真剣に考得いただきます。 グループワークにより多くのメンバーを巻き込み、DX化推進に勢いをつけます。 受講者の理解度や興味に応じて、深掘するところと軽く流すところを見極めます。 テキストにない情報(実例系)も組み込むことで、表層的な内容ではなく、コンサルティングに近い対話を目指します。